



おう 王せいとうとじゆうとう

だい33しょう



い ちぶのニーファイ人が大さばきつかさパホーランに、^{くに}國のほ
うりつを少しばかりかえるようにいいました。(アルマ51：
2-3)



パホーランは、そのもとめを聞き入れませんでした。するとその
人たちは、パホーランをおこって、大さばきつかさをやめさせよう
としました。さばきつかさでなく、王をのぞんだからです。(アル
マ51：3-5)



おう 王せいとうとよばれたこの人たちののぞみは、なかまの中から王
を立て、たみをおさめることでした。(アルマ51：5, 8)



いっぽう、パホーランに大さばきつかさでいてもらいたいと思っ
たニーファイ人たちは、じゆうとうとよばれました。かれらは何でも
自分でえらんで生活し、れいはいしたいと思いました。(アルマ
51：6)



こくみんは、じゆうとうか王せいとうかをとうひょうできめまし
た。大半の人がじゆうとうにさんせいしました。(アルマ51：7)



同じころ、アマリキヤがレーマン人のたいぐんをあつめて、ニーファイ人をせめようとしていました。(アルマ51：9)



王せいとうの人びとは、レーマン人がせめて来ると聞いた時、心の中できらび、自分の国をまもることをこぼしました。(アルマ51：13)



しれいかんモロナイは、じゆうのためにたたかわない王せいとうの人たちをおこりました。モロナイはこれまで、ニーファイ人のじゆうをまもるために一生けんめいがんばってきたのです。(アルマ51：14)



モロナイは国のそうとくに、王せいとうの人たちをきょうせいてきにレーマン人とたたかわせるか、しけいにする力をくださいたのみました。(アルマ51：15)



国のそうとくであるパホーランからこの力をあたえられたモロナイは、自分のぐんをひきいて、王せいとうの人たちに立ちむかいました。(アルマ51：16-18)



多くの王せいとうの人たちが、つるぎにたおれました。ろうやに入れられた人もいました。そのほかの人たちは、レーマン人から国をまもるためにたたかうことを聞きいれました。(アルマ51：19-20)